

去りゆく年を懐かしみながら



12月のカレンダーの上にごいただいたクリスマスカードを貼り付けて置きましたら、残りの日々は見えなくなりました。様々な美しいカード、お手製の個性的なカードの絵を眺め、仕掛けを楽しみ、温かいメッセージを読んでは、嬉しくなり、お顔を思い浮かべながら、まだまだクリスマスの余韻に浸っております。

また、今年はアンドレ・リュウというオランダのヴァイオリニスト・指揮者のクリスマス・キャロルのCDを聞いています。演奏は楽しく、甘く、優美で、酔うほどです。クリスマスの情景を思い描きながら聞いています。

孫たちとも楽しく食事をしました。一年を振り返り、成長した部分、まだ幼い部分を見てはなんとも微笑ましい思いになります。上の孫にとっては、来年は最後の高校生活。希望する道に進めるように、しっかり勉強してくださいね。



クリスマス・ホリーを25日にベランダに置いて、小鳥たちへのプレゼントにしました。小鳥が飛んでくるのを待っていました。なんとか写真に撮った鳥はツグミでしょうか。私たちが見ている気配を感じるのか、遠慮しながら、つついて飛び去るのがつねでしたが、昨日留守をしている間に、実が半分以上食べ尽くされていました。素早い！お見事！3日目には、2粒が残されただけで完食となりました。空っぽの苗木が彼らの落し物と共に残されていました。これから1年、赤い実がなるのを待つ作業が始まりました。



帰省ラッシュが始まったというニュースをTVで見ました。みんな、故郷が、両親が懐かしんだなあ～と思います。急にエルミタージュの主が、墓参りに行こうと提案。じゃあ、ドライブ気分で行きましょうね。渋滞に巻き込まれても、イライラしないでね、と念を押して出発。



夫の母が横浜に引っ越してくると同時に墓地を建てました。近い所にありますので、年に数回はお掃除に出かけています。ここには夫の両親、私たちの初孫になる「仰くん」が眠っています。両親に感謝。「仰くん」は無垢のまま召された天使です。私の実家の墓地は弘前の圓明寺から母が厚木に改葬しました。浄土真宗のお寺の墓地で讃美歌を歌う事に遠慮がありましたし、もはや誰も弘前には住んでいないためです。丹沢の山々が真近かに見え、杉木立に囲まれている静かな霊園です。ご先祖様たちはまさかここに連れてこられるとは思ってもやらず、びっくり仰天しているでしょう。家族の一人一人を懐かしみながら、お花を飾りました。天の故郷でまた会える日まで、元気でね。